

大学番号：194

注3

届出

[平成27年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

名古屋学院大学 国際文化学部

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人名古屋学院大学
平成27年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 キカクチイキレンケイソウチョウ テグチ ヒロヤ
企画地域連携室長 出口 博也

電話番号 052-678-4085

（夜間） 052-678-4080

F A X 052-682-6813

e-mail upr@ngu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成27年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

国際文化学部

<国際文化学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	16
6. 留意事項等に対する履行状況等	27
7. その他全般的事項	28

<国際協力学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	31
2. 授業科目の概要	35
3. 施設・設備の整備状況、経費	41
4. 既設大学等の状況	42
5. 教員組織の状況	44
6. 留意事項等に対する履行状況等	53
7. その他全般的事項	54

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人名古屋学院大学

(2) 大学名

名古屋学院大学

(3) 大学の位置

名古屋キャンパス白鳥学舎

〒456-8612

愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号

名古屋キャンパス日比野学舎

〒456-0062

愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イナガキ タカシ) 稲垣隆司 (平成24年8月)		
学長	(キブネ ヒサオ) 木船久雄 (平成23年4月)		
学部長	(キムラ コウシン) 木村光伸 (平成27年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成25年度に報告済の内容 → (25)
平成27年度に報告する内容 → (27)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成24年度開設の4年制の学科の場合(平成27年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
国際文化学部 国際文化学科 学士(国際文化)	4年	100人	年次 -人	400人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 提出年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 100 (-) [-]	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	0.93倍	- 倍	
志願者数	440 (-) [-]	- (-) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
受験者数	434 (-) [-]	- (-) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
合格者数	340 (-) [-]	- (-) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
B 入学者数	93 (-) [-]	- (-) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
入学定員超過率 B/A	0.93												

- (注) ・ 数字は, 平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで**記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率」は, 完成年度を越えて報告書を提出する大学(「改善意見等対応状況報告書」を提出する大学)のみ記入してください。「設置計画履行状況等報告書」の場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[1] (-) 93	[-] (-) -	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
4年次	/				[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
計			[1] (-) 93	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()

- (注) ・ 数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成27年度 入学者	93 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人		0.0 %
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	0 人	平成28年度	人	人		%
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
平成29年度 入学者	人	0 人	平成29年度	人	人		%
			平成30年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		%
合 計	93 人	0 人					0.0 %

(注)・数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成27年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<国際文化学部 国際文化学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教	助手			
キリスト教	キリスト教概説	1前	2					1						
	キリスト教概説	1後	2					1						
	キリスト教と文学	2・3・4前		2								兼1		
	キリスト教と文化	2・3・4後		2								兼1		
	キリスト教倫理	2・3・4前		2								兼1		
	キリスト教史	1・2・3・4後		2								兼1		
自己理解と自己開発	基礎セミナー	1前	2			8	2	4						
	発展セミナー	1後		2		8	2	4						
	キャリアデザイン1a	1前		2								兼2		
	キャリアデザイン1b	1後		2								兼2		
	キャリアデザイン2a	2前		2								兼3		
	キャリアデザイン2b	2後		2								兼3		
	キャリアデザイン3a	3前		2								兼1		
	キャリアデザイン3b	3後		2								兼1		
	ボランティア学	1・2・3・4前		2								兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	ボランティア演習	1・2・3・4後		2								兼3 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27) ※実習	
インターンシップ1	1・2・3・4前・後		2									兼1	集中	
	1・2・3・4前・後		2									兼1	集中	
人間理解	哲学	1・2・3・4前		2									兼1	
	哲学史	1・2・3・4後		2									兼1	
	日本文学	1・2・3・4前		2									兼1	
	日本文学史	1・2・3・4後		2									兼1	
	心理学概論	1・2・3・4前・後		2									兼3 兼2	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
	文明論	1・2・3・4後		2									兼1	
	宗教と人間	1・2・3・4前 1・2・3・4後		2									兼1	教学上の理由により、開講時期を変更
	聖書と人間	1・2・3・4前		2									兼2	教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)
	キリスト教人間学	2・3・4前		2									兼1	
	死生学	1・2・3・4前		2									兼1 兼3	教学上の理由により、兼任講師1名に担当変更(27) オムニバス
	臨床心理学	1・2・3・4前・後		2									兼1	
	社会的教養	社会学入門	1・2・3・4前		2					1				兼3
宗教社会学		1・2・3・4前・後		2					1				兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
比較宗教学		1・2・3・4後		2									兼1	
日本国憲法		1・2・3・4前・後		2									兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
現代社会と法律		1・2・3・4前・後		2									兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
現代社会と経済		1・2・3・4前・後		2									兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を変更及び追加(27)
企業と社会		1・2・3・4前・後		2									兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
国際関係論入門		1・2・3・4後		2									兼1	
国際政治学		1・2・3・4前		2									兼1	
国際社会問題		1・2・3・4前・後		2									兼1	
現代社会と教育		1・2・3・4後		2									兼1	
平和学入門		1・2・3・4前・後		2									兼1	
人権と社会		1・2・3・4前 1・2・3・4前・後		2									兼1	教学上の理由により、開講時期を変更
理自然		数学	1・2・3・4前		2									兼1
		数理科学	1・2・3・4後		2									兼1
	基礎統計学	1・2・3・4前		2									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
N G U 教 養 ス タ ン ダ ー ド 科 目	自然理解	実用統計学	1・2・3・4後	2							兼1	
		化学	1・2・3・4前	2							兼1	
		生物学	1・2・3・4前・後	2							兼1	
		地球科学概論	1・2・3・4前	2							兼1	
		地球物理学概論	1・2・3・4後	2							兼1	
		人類学	1・2・3・4前	2							兼1	
		物理学	1・2・3・4後	2							兼1	
		生命倫理	1・2・3・4後	2							兼1 兼2	教学上の理由により、兼任講師1名に担当変更(27) オムニバス
		歴史文化理解	日本史	1・2・3・4前	2			1				兼1
	日本思想史		1・2・3・4前・後	2							兼1	
	中国文化入門		1・2・3・4前	2			1				兼1	
	英米文化入門		1・2・3・4後	2							兼1	
	文化人類学入門		1・2・3・4後	2					1		兼1	
	世界の近現代史		1・2・3・4前	2					1		兼1	
	世界史		1・2・3・4後	2					1		兼1	
	考古学入門		1・2・3・4後	2			1				兼1	
	陶芸論		1・2・3・4前	2							兼1	
	陶芸演習		1・2・3・4後	2							兼1	
	環境理解		環境科学	1・2・3・4前	2							兼1
		生態学	1・2・3・4前・後	2							兼1	
		地球環境学	1・2・3・4前	2							兼1	
	身体的理解	健康の科学	1・2・3・4前・後	2							兼1	
		スポーツの科学	1・2・3・4前・後	2							兼1	
		スポーツ初級A	1・2・3・4前・後	1							兼4 兼2	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		スポーツ初級B	1・2・3・4後 1+2+3+4前+後	1							兼4 兼2	教学上の理由により、開講時期を変更。 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		スポーツ中級A	2・3・4前・後	1							兼2	
		スポーツ中級B	2・3・4前・後	1							兼3	
スポーツ上級A		3・4前・後	1							兼1		
スポーツ上級B		3・4後	1							兼1		
地域理解	地域商業まちづくり学	1・2・3・4前 1+2+3+4前+後	2							兼3 兼1	教学上の理由により、開講時期を変更。 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	歴史観光まちづくり学	1・2・3・4前・後	2							兼1		
	減災福祉まちづくり学	1・2・3・4前・後	2							兼1		
	地域商業まちづくり演習	1・2・3・4後	2							兼1		
	歴史観光まちづくり演習	1・2・3・4後	2							兼1		
	減災福祉まちづくり演習	1・2・3・4後	2							兼1		
	上級まちづくり演習	2・3・4前後	2							兼3		
言語とコミュニケーション	日本語表現	1前・後	2							兼1		
	日本語表現上級	1前・後	2							兼3		
	基礎英語1	1前	1							兼3 兼2	教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)	
	基礎英語2	1後	1							兼3 兼2	教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)	
	英会話1	1前	1							兼4 兼3	教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)	
	英会話2	1後	1							兼4 兼3	教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)	
	入門ドイツ語1	1前	1		1					兼0 兼1	教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教員に変更(27)	
	入門ドイツ語2	1後	1		1					兼0 兼1	教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教員に変更(27)	
	基礎ドイツ語1	1前	1			1				兼0 兼1	教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教員に変更(27)	
	基礎ドイツ語2	1後	1			1				兼0 兼1	教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教員に変更(27)	
	入門フランス語1	1前	1			1				兼1 兼2	履修人数の減少により担当者数を変更	
	入門フランス語2	1後	1			1				兼1 兼2	履修人数の減少により担当者数を変更	
	基礎フランス語1	1前	1			1				兼1 兼2	履修人数の減少により担当者数を変更	
	基礎フランス語2	1後	1			1				兼1 兼2	履修人数の減少により担当者数を変更	
	入門スペイン語1	1前	1							兼2		
	入門スペイン語2	1後	1							兼2		
	基礎スペイン語1	1前	1							兼2		
	基礎スペイン語2	1後	1							兼2		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
N G U 教養スタンダード科目	言語とコミュニケーション	入門中国語1	1前		1		1					兼1 兼2	履修人数の減少により担当者数を変更
		入門中国語2	1後		1		1					兼1 兼2	履修人数の減少により担当者数を変更
		基礎中国語1	1前		1		2					兼0 兼2	教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教授に変更(27)
		基礎中国語2	1後		1		2					兼0 兼2	教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教授に変更(27)
		入門韓国語1	1前		1							兼1	
		入門韓国語2	1後		1							兼1	
		基礎韓国語1	1前		1							兼1	
		基礎韓国語2	1後		1							兼1	
		手話入門	1後 4前		1							兼1	教学上の理由により、開講時期を変更
	手話基礎	1後		1							兼1		
	情報	情報処理基礎	1前	2								兼1	
		情報概論	2後		2							兼1	
	教職	教職論	1後		2							兼1	
		教育原理	1後		2							兼1	
		教育心理学概論1	1前		2							兼1	
		教育心理学概論2	1後		2							兼1	
		教育制度論	1前		2							兼1	
特別活動論		2前		2							兼1		
教育の方法と技術		2後		2							兼1		
道德教育論		2後		2							兼1		
生徒・進路指導論		2後		2							兼1		
教育相談	2前		2							兼1			
学部共通科目	国際コミュニケーションスキル	国際文化理解英語1	2前		1							兼1	
		国際文化理解英語2	2後		1							兼1	
		留学英語中級	2前		1							兼1	
		留学英語上級	2後		1							兼1	
		TOEIC英語入門	1後		1							兼1	
		TOEIC英語基礎1	2前		1							兼1	
		TOEIC英語基礎2	2後		1							兼1	
		TOEIC英語実践1	2前		1							兼1	
		TOEIC英語実践2	2後		1							兼1	
		ビジネス英語1	2前		1							兼1	
		ビジネス英語2	2後		1							兼1	
		時事ドイツ語1	2前		1			1					
		時事ドイツ語2	2後		1			1					
		応用ドイツ語1	2前		1			1					
		応用ドイツ語2	2後		1			1					
		実践ドイツ語1	3前		1							兼1	
		実践ドイツ語2	3後		1							兼1	
		時事フランス語1	2前		1							兼1	
		時事フランス語2	2後		1							兼1	
		応用フランス語1	2前		1			1					
		応用フランス語2	2後		1			1					
		実践フランス語1	3前		1							兼1	
		実践フランス語2	3後		1							兼1	
時事スペイン語1	2前		1							兼3			
時事スペイン語2	2後		1							兼3			
応用スペイン語1	2前		1							兼3			
学部共通科目	国際コミュニケーションスキル	応用スペイン語2	2後		1							兼3	
		実践スペイン語1	3前		1							兼3	
		実践スペイン語2	3後		1							兼3	
		時事中国語1	2前		1		3						
		時事中国語2	2後		1		3						
		応用中国語1	2前		1		3						
		応用中国語2	2後		1		3						
		実践中国語1	3前		1		1					兼1	
		実践中国語2	3後		1		1					兼1	
		コミュニケーション中国語1	1前		1		1						
		コミュニケーション中国語2	1後		1		1						
		ビジュアル中国語	2後		1		1						
		日常中国語1	2前		1		1						
		日常中国語2	2後		1		1						
		中国語検定読解入門	3前		1		1						
		アジア言語入門1	2前		1		1					兼1	
		アジア言語入門2	2後		1		1					兼1	
コンピュータ技法1	2前		2		1								
コンピュータ技法2	2後		2		1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
国際理解科目	国際文化論	1前	2			2					兼1	オムニバス	
	キリスト教文化論1	2前		2				1					
	キリスト教文化論2	2後		2				1					
	文化人類学	1前		2				1					
	グローバル社会文化論	1後		2		1					兼1	オムニバス	
	日本史概説	1前		2		2							
	日本文化論	1後	2			1							
	比較宗教論	2前		2				1					
	宗教と平和	2後		2				1					
	国際環境論	2前		2							兼1		
学 科 基 幹 科 目	英語演習1	1前	1			1					兼3	兼2	教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)
	英語演習2	1後	1			1					兼3	兼2	教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)
	英語演習3	2前	1			1					兼2		
	英語演習4	2後	1			1					兼2		
	英語演習5	2前	1			1					兼2		
	英語演習6	2後	1			1					兼2		
	異文化コミュニケーション論	2前	2			1					兼1		
	比較文化・社会論1	2前	2			1							
	比較文化・社会論2	2後		2			1						
	文化マネジメント論	2前		2							兼1		
	多文化共生社会論	2後		2							兼1		
	東西交渉史	2前		2				1					
	観光文化論	2後		2							兼1		
	現代芸術論	2前		2							兼1		
	メディア文化論	2前		2							兼1		
	情報文化論	2前		2				1					
	多文化教育論	2後		2							兼1		
	人間行動論	2前		2				1					
	比較認知科学	2後		2				1					
	比較社会心理学	2前		2				1					
現代経済入門	2後		2							兼1			
専 門 科 目	アメリカ社会文化論	2前		2							兼1		
	アメリカ政治経済論	2後		2							兼1		
	英米文学概論1	2前		2							兼1		
	英米文学概論2	2後		2							兼1		
	英米文学講義1	2前		2							兼1		
	英米文学講義2	2後		2							兼1		
	英文学史	2後		2							兼1		
	米文学史	2後		2							兼1		
	ヨーロッパ文化総論	2前		2		1							
	ヨーロッパ地域文化論A	2前		2			1						
	ヨーロッパ地域文化論B	2後		2			1						
	ヨーロッパ地域文化論C	2前		2			1						
	地中海文化論	2後		2							兼1		
	日欧交流史	3後		2		1							
	環太平洋地域文化論	3前		2							兼2	オムニバス	
	イスラム文化圏論	3後		2				1					
	文化変容論	3前		2							兼1		
	マイノリティ論	2前		2							兼1		
	比較文化行動論	3前		2		1							
	グローバル経済論	3後		2							兼1		
グローバル・ビジネス・コミュニケーション	3前		2							兼1			
日 本 ア ジ ア 文 化 展 開 科 目	日本文化史	2前		2		2							
	日本の思想	2後		2		2						オムニバス	
	日本の民俗学	2前		2				1					
	日本社会論	2後		2							兼1		
	日本地域史論	3前		2		2						オムニバス	
	日本アジア交流史	2前		2		1							
	現代中国事情	2後		2							兼1		
	中国文化社会論	2前		2		1							
	韓国文化社会論	2後		2							兼1		
	現代アジア文化社会論	2前		2							兼1		
	南アジア文化社会論	2後		2				1					
	日中関係論	2前		2							兼1		
	中国社会経済論	3前		2							兼1		
	日本のポップカルチャーとアジア	3後		2		1							
	アジアの商習慣	3前		2							兼1		
アジア就業事情	3後		2							兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科専門科目	国際関係協目力	文化交流論	2前	2								兼1	
		ジェンダー論	2前	2								兼1	
		国際人権論	2後	2								兼1	
		平和学	2後	2								兼1	
		国際地理論	1後	2								兼1	
		世界遺産と保全	3前	2								兼1	
	留学期間	海外事情1	1・2・3・4前・後		2							兼1	集中
		海外事情2	1・2・3・4前・後		2							兼1	集中
		海外事情3	1・2・3・4前・後		2							兼1	集中
		海外事情4	1・2・3・4前・後		2							兼1	集中
	演習科目	フィールドワーク	1・2・3前		1		2	0	2				集中
		国際文化理解実践論1	1・2・3前		2		3	2	2				
		国際文化理解実践論2	1・2・3後		2		3	2	2				
		国際文化基礎演習1	2前	2			8	2	4				
		国際文化基礎演習2	2後	2			8	2	4				
国際文化演習		3～4通	8			8	2	4					

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
22	228	0	250	22	228	0	250	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	環境科学	2	1・2・3・4	一般	選択	兼任講師の本務の都合により科目担当ができなかったため、今年度未開講とした。代替措置なし。次年度開講予定で調整を進めている。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「環境科学」については、兼任講師の本務の都合により未開講とした。上記科目の配当年次は1・2・3・4年次であり、次年度以後も履修が可能である。現在、次年度開講に向けて担当者を選考中であるので、大きな問題はない。学生に対しては履修登録システムにおいて周知をしている。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = 0.00$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	その他に校舎敷地とする空地を含んでいたため訂正した。また、その他に法人所有地を含んでいたため控除した。(27)				
	校舎敷地	225,418.99 144,021.00 m ²	0 m ²	0 m ²	225,418.99 144,021.00 m ²					
	運動場用地	83,493.78 81,632.00 m ²	0 m ²	0 m ²	83,493.78 81,632.00 m ²					
	小 計	308,912.77 225,653.00 m ²	0 m ²	0 m ²	308,912.77 225,653.00 m ²					
	そ の 他	64,445.76 181,773.53 m ²	0 m ²	0 m ²	64,445.76 181,773.53 m ²					
	合 計	373,358.53 407,426.53 m ²	0 m ²	0 m ²	373,358.53 407,426.53 m ²					
(2) 校 舎	専 用	74,094.01 m ² 74,102.73 m ² (74,094.01 m ²) (74,102.73 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	74,094.01 m ² 74,102.73 m ² (74,094.01 m ²) (74,102.73 m ²)	平成27年1月竣工の新校舎の面積を、建築面積から登記上の面積に修正した。				
	共 用									
(3) 教 室 等	講義室	95室	演習室	82室	実験実習室	27室	情報処理学習施設	6室 (補助職員 0人)	語学学習施設	8室 (補助職員 0人)
	(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		国際文化学部国際文化学科			14 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点			
	国際文化学部	(111,019[32,647]) (111,019[32,647])	(1,060[495]) (1,060[495])	(400[400]) (400[400])	1,898 (1,642)	1,612 (1,612)	0			
	計	(111,019[32,647]) (111,019[32,647])	(1,060[495]) (1,060[495])	(400[400]) (400[400])	1,898 (1,642)	1,612 (1,612)	0			
(6) 図 書 館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	5,907.13 m ²		778		550,000					
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	6,711.52 m ²		野球場1面、屋内プール1面、テニスコート17面、ゴルフ練習場1面他							
経費の見積り及び 維持方法の概要	経費 の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費は大学全体 で配分	
		教員1人当り研究費等	680千円	680千円	図書購入費	5,270千円	5,270千円	5,270千円		
	共同研究費等	3,697千円	3,697千円	設備購入費	0千円	0千円	0千円			
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,370千円	1,090千円	1,090千円	1,090千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入、手数料収入、資産運用収入、雑収入等								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成27年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(27)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋学院大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
経済学部						1.06			
経済学科	4	300	10	1,160	学士(経済学)	1.06	昭和39年度	愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号	平成27年度より3年次編入学定員(10)廃止、入学定員を300から250に変更。
総合政策学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成12年度	同上	平成27年度より学生募集停止
現代社会学部									
現代社会学科	4	150	-	150	学士(現代社会)	0.80	平成27年度	同上	
商学部						1.09			
商学科	4	200	-	805	学士(商学)	1.12	平成4年度	同上	平成27年度より3年次編入学定員(5)廃止
経営情報学科	4	100	-	400	学士(商学)	1.03	平成15年度	同上	
法学部						1.09			
法学科	4	150	-	450	学士(法学)	1.09	平成25年度	同上	
外国語学部						1.16			
英米語学科	4	140	-	560	学士(文学)	1.16	平成元年度	同上	
中国コミュニケーション学科	4	-	-	200	学士(文学)	-	平成元年度	同上	平成27年度より学生募集停止
国際文化協力学科	4	-	-	200	学士(文学)	-	平成17年度	同上	平成27年度より学生募集停止
国際文化学部						0.90			
国際文化学科	4	100	-	100	学士(文学)	0.93	平成27年度	同上	
国際協力学科	4	50	-	50	学士(文学)	0.86	平成27年度	同上	
スポーツ健康学部									
スポーツ健康学科	4	120	-	480	学士(スポーツ健康)	1.25	平成22年度	愛知県瀬戸市上品野町1350番地	
こどもスポーツ教育学科	4	50	-	50	学士(こどもスポーツ教育)	0.24	平成27年度	同上	
リハビリテーション学部									
理学療法学科	4	80	-	320	学士(理学療法)	1.11	平成22年度	同上	

大学の名称	名古屋学院大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	
経済経営研究科	年	人	年次人	人		倍			
経済学専攻 修士課程	2	7	-	14	修士 (経済学)	1.49	平成9年度	愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号	
経営政策専攻 博士前期課程	2	20	-	40	修士 (経営学)	1.15	平成9年度	同上	
経営政策専攻 博士後期課程	3	5	-	15	博士 (経営学)	0.46	平成11年度	同上	
外国語学研究科									
英語学専攻 修士課程	2	7	-	14	修士 (英語学)	0.42	平成9年度	同上	
国際文化協力専攻 修士課程	2	5	-	10	修士 (国際文化協力)	0.40	平成21年度	同上	
英語学専攻 博士前期課程 (通信教育課程)	2	20	-	40	修士 (英語学)	0.77	平成13年度	同上	
英語学専攻 博士後期課程 (通信教育課程)	3	3	-	9	博士 (英語学)	0.77	平成20年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成27年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<国際文化学部 国際文化学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	曾我 良成	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 日本史 日本史概説 日本文化論 日本文化史 日本の思想 ※ 日本地域史論 ※ フィールドワーク 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	教授	黄 名時	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 中国文化入門 考古学入門 実践中国語1 実践中国語2 国際文化論 ※ 中国文化社会論 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	教授	近藤 泉	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 入門中国語1 入門中国語2 時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 日常中国語1 日常中国語2 日本のポップカルチャーとアジア 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	教授	土屋 勝彦	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 応用ドイツ語1 応用ドイツ語2 国際文化論 ※ グローバル社会文化論 ※ 比較文化・社会論1 ヨーロッパ文化総論 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	教授	土屋 勝彦	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 入門ドイツ語1 入門ドイツ語2 応用ドイツ語1 応用ドイツ語2 国際文化論 ※ グローバル社会文化論 ※ 比較文化・社会論1 ヨーロッパ文化総論 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(27)
専	教授	樋口 勇夫	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 コミュニケーション中国語1 コミュニケーション中国語2 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	教授	樋口 勇夫	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 基礎中国語1 基礎中国語2 時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 コミュニケーション中国語1 コミュニケーション中国語2 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	原田 寿美子	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 ビジュアル中国語 中国語検定読解入門 コンピュータ技法1 コンピュータ技法2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	教授	原田 寿美子	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 基礎中国語1 基礎中国語2 時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 ビジュアル中国語 中国語検定読解入門 コンピュータ技法1 コンピュータ技法2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(27)
専	教授	鹿毛 敏夫	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 日本史概説 日欧交流史 日本文化史 日本の思想 ※ 日本地域史論 ※ 日本アジア交流史 フィールドワーク 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	教授	Ray Thomas Donahue	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6 異文化コミュニケーション論 比較文化行動論 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	准教授	鈴木 啓司	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 応用フランス語1 応用フランス語2 比較文化・社会論2 ヨーロッパ地域文化論A 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	准教授	山本 淑雄	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 時事ドイツ語1 時事ドイツ語2 ヨーロッパ地域文化論B ヨーロッパ地域文化論C 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	准教授	山本 淑雄	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2 時事ドイツ語1 時事ドイツ語2 ヨーロッパ地域文化論B ヨーロッパ地域文化論C 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(27)
専	講師	黒柳 志仁	平成27年4月	キリスト教概説 キリスト教 基礎セミナー 発展セミナー キリスト教文化論1 キリスト教文化論2 比較宗教論 宗教と平和 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	宮坂 清	平成29年4月	基礎セミナー 発展セミナー 社会学入門 宗教社会学 文化人類学入門 文化人類学 日本の民俗学 南アジア文化社会論 フィールドワーク 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	講師	吉田 達矢	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 世界の近現代史 世界史 東西交渉史 イスラム文化圏論 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	講師	柴崎 全弘	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 情報文化論 人間行動論 比較認知科学 比較社会心理学 フィールドワーク 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
兼任	教授	水野 晶夫	平成27年4月	ポランティア学 地域商業まちづくり学 地域商業まちづくり演習 上級まちづくり演習						
兼任	教授	松永 公廣	平成27年4月	インターンシップ1 インターンシップ2						
兼任	教授	持田 辰郎	平成27年4月	哲学 哲学史						
兼任	教授	早川 厚一	平成27年4月	日本文学 日本文学史	兼任	教授	早川 厚一	平成27年4月	日本文学 日本文学史 日本語表現	教学上の理由により、当該科目の担当教員に変更(27)
兼任	教授	谷口 篤	平成27年4月	心理学概論 教育心理学概論1 教育心理学概論2 教育の方法と技術 教育相談						
兼任	教授	今村 薫	平成27年4月	文明論 人類学 文化人類学入門						
兼任	教授	伊沢 俊泰	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会 グローバル経済論	兼任	教授	伊沢 俊泰	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会 グローバル経済論	教学上の理由により、黒田准教授(兼任)、村上准教授(兼任)に担当変更(27)
兼任	教授	増田 あゆみ	平成27年4月	国際関係論入門 国際政治学 環太平洋地域文化論 ※ 文化変容論 マイノリティ論 日本社会論						
兼任	教授	矢澤 雅	平成27年4月	現代社会と教育 教職論 教育原理 教育制度論 多文化教育論	兼任	教授	矢澤 雅	平成27年4月	現代社会と教育 教職論 教育原理 教育制度論 多文化教育論	教学上の理由により、松本准教授(兼任)に担当変更(27)
兼任	教授	宝島 格	平成27年4月	数学 数理科学 基礎統計学						
兼任	教授	秋元 浩一	平成27年4月	実用統計学						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	荻原 隆	平成27年4月	日本思想史						
兼任	教授	菅野 光公	平成27年4月	英米文化入門						
兼任	教授	木村 光伸	平成27年4月	生態学 グローバル社会文化論 ※ 国際環境論 環太平洋地域文化論 ※ 文化交流論 世界遺産と保全 海外事情1 海外事情2 海外事情3 海外事情4						
兼任	教授	井澤 知旦	平成27年4月	減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習 上級まちづくり演習	兼任	教授	井澤 知旦	平成27年4月	地域商業まちづくり学 減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習 上級まちづくり演習	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27) 教学上の理由により、越智講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	教授	程 鵬	平成27年4月	情報処理基礎 情報概論						
兼任	教授	佐竹 眞明	平成27年4月	アジア言語入門1 国際文化論 ※ 多文化共生社会論 現代アジア文化社会論						
兼任	教授	Paul Dveraux McGrath	平成28年4月	英米文学概論1 英米文学講義1 英米文学講義2						
兼任	教授	米山 雅浩	平成28年4月	英米文学概論2						
兼任	准教授	大宮 有博	平成27年4月	ボランティア演習 死生学※ 人権と社会 生命倫理※ 道徳教育論	兼任	准教授	大宮 有博	平成27年4月	ボランティア演習 死生学※ 人権と社会 生命倫理※ 道徳教育論 ボランティア学 聖書と人間	教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)、生命倫理は亀井講師(兼任)の単独担当に変更。人権と社会は神田講師(兼任)に変更 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	准教授	金 愛慶	平成27年4月	臨床心理学 韓国文化社会論						
兼任	准教授	飯島 滋明	平成27年4月	平和学入門 平和学						
兼任	准教授	中田 昭一	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2 実践中国語1 実践中国語2 現代中国事情 日中関係論 留学英語中級						
兼任	准教授	新多 了	平成28年4月							
兼任	講師	安藤 りか	平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b キャリアデザイン3a キャリアデザイン3b	兼任	講師	安藤 りか	平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b キャリアデザイン3a キャリアデザイン3b	教学上の理由により、キャリアデザイン1aは山崎講師(兼任)、キャリアデザイン1bは上本講師(兼任)・山崎講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	江利川 良枝	平成27年4月	キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	玉川 貴子	平成27年4月	死生学※	兼任	講師	玉川 貴子	平成27年4月	死生学※ ボランティア演習	教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)の単独担当に変更 効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	講師	斉藤 久美子	平成27年4月	生物学						
兼任	講師	小林 記之	平成27年4月	地球科学概論 地球物理学概論 物理学 地球環境学						
兼任	講師	伊藤 幹	平成27年4月	健康の科学 スポーツの科学 スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B スポーツ上級A スポーツ上級B						
兼任	講師	田中 智麻	平成27年4月	歴史観光まちづくり学 歴史観光まちづくり演習 上級まちづくり演習						
兼任	講師	玉田 沙織	平成27年4月	日本語表現上級	兼任	講師	濱野 寛子	平成27年4月	日本語表現上級	玉田講師自己都合退職により、後任として科目を担当(27)
兼任	講師	川越 めぐみ	平成27年4月	日本語表現上級						
兼任	講師	工藤 泰三	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2	兼任	講師	工藤 泰三	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 英語演習1 英語演習2	教学上の理由により、基礎英語1,2は石川講師(兼任)・小杉講師(兼任)・高橋講師(兼任)に担当変更 教学上の理由により、当該科目の担当教員を変更及び追加(27)
兼任	講師	市川 新剛	平成28年4月	留学英語上級						
兼任	講師	佐伯 奈津子	平成27年4月	アジア言語入門2						
兼任	講師	人見 泰弘	平成27年4月	文化マネジメント論 ジェンダー論 国際人権論						
兼任	講師	野尻 洋平	平成28年4月	メディア文化論						
兼任	講師	石崎 程之	平成27年4月	現代経済入門						
兼任	講師	北垣 創	平成27年4月	キリスト教と文学 キリスト教史						
兼任	講師	志村 真	平成27年4月	キリスト教と文化 宗教と人間 聖書と人間 比較宗教学	兼任	講師	志村 真	平成27年4月	キリスト教と文化 宗教と人間 聖書と人間 比較宗教学	教学上の理由により、宗教と人間・比較宗教学は村山講師(兼任)、聖書と人間は大宮准教授(兼任)・日沖講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	石田 聖実	平成28年4月	キリスト教倫理 キリスト教人間学						
兼任	講師	石井 邦博	平成28年4月	キャリアデザイン1a						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	丹山 美香	平成27年4月	キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	兼任	講師	丹山 美香	平成27年4月	キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	教学上の理由により、キャリアデザイン1bは上本講師(兼任)・山崎講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	加藤 智宏	平成27年4月	心理学概論						
兼任	講師	亀井 美穂	平成27年4月	死生学※ 生命倫理※	兼任	講師	亀井 美穂	平成27年4月	死生学※ 生命倫理※	教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)の単独担当に変更。生命倫理はオムニバスから単独担当に変更(27)
兼任	講師	玉木 満	平成27年4月	日本国憲法 現代社会と法律						
兼任	講師	中原 聖乃	平成27年4月	国際社会問題						
兼任	講師	長 昌史	平成27年4月	化学						
兼任	講師	八木 三生	平成27年4月	陶芸論 陶芸演習 現代芸術論						
兼任	講師	稲垣 隆司	平成27年4月	環境科学			後任未定			本務の関係で科目担当ができず、未開講。次年度からの就任が難しいため、現在、後任(兼任)を選考中
兼任	講師	米川 直樹	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級B						
兼任	講師	市野 聖治	平成28年4月	スポーツ中級A スポーツ中級B						
兼任	講師	河村 瑛子	平成27年4月	日本語表現	兼任	講師	河村 瑛子	平成27年4月	日本語表現	教学上の理由により、早川教授(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	永井 圭司	平成27年4月	日本語表現上級						
兼任	講師	野々山 富士江	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6	兼任	講師	野々山 富士江	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6	教学上の理由により、基礎英語1.2は石川講師(兼任)・小杉講師(兼任)・高橋講師(兼任)に担当変更及び追加(27) 教学上の理由により、英語演習1.2は工藤講師(兼任)・原口講師(兼任)・山之内講師(兼任)に担当変更及び追加(27)
兼任	講師	N. ルツ	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	N. ルツ	平成27年4月	英会話1 英会話2	教学上の理由により、英会話1.2はダアノイ講師(兼任)・原口講師(兼任)・望月講師(兼任)・吉野講師(兼任)に担当変更及び追加(27)
兼任	講師	M.A.ダアノイ	平成27年4月	英会話1 英会話2						
兼任	講師	G. M. マクレラン	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	G. M. マクレラン	平成27年4月	英会話1 英会話2	教学上の理由により、英会話1.2はダアノイ講師(兼任)・原口講師(兼任)・望月講師(兼任)・吉野講師(兼任)に担当変更及び追加(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	保坂 和宣	平成27年4月	入門ドイツ語1 入門ドイツ語2 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2 実践ドイツ語1 実践ドイツ語2	兼任	講師	保坂 和宣	平成27年4月	入門ドイツ語1 入門ドイツ語2 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2 実践ドイツ語1 実践ドイツ語2	教育効果を考慮し、入門ドイツ語1.2は土屋教授(専任)、基礎ドイツ語1.2は山本准教授(専任)に担当変更
兼任	講師	下村 武	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2	兼任	講師	下村 武	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2	履修人数の減少により、入門フランス語1.2は鈴木准教授(専任)・湯浅講師(兼任)の2名に変更し、基礎フランス語1.2は鈴木准教授(専任)・河脇講師(兼任)の2名に担当変更
兼任	講師	鈴木 球子	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2	兼任	講師	鈴木 球子	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2	
兼任	講師	重松 由美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	重松 由美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、入門スペイン語1.2は梅田講師(兼任)・木下講師(兼任)、基礎スペイン語1.2は内田講師(兼任)・櫻井講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	寺澤 宏美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	寺澤 宏美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	
兼任	講師	史 念	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2 中国社会経済論 アジアの商習慣 アジア就業事情	兼任	講師	史 念	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2 中国社会経済論 アジアの商習慣 アジア就業事情	履修人数の減少により、入門中国語1.2は近藤教授(専任)・中田准教授(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	王 麗英	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	兼任	講師	王 麗英	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	教育効果を考慮し、基礎中国語1.2は原田教授(専任)・樋口教授(専任)に担当変更(27)
兼任	講師	陳 泰銀	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	兼任	講師	陳 泰銀	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	
兼任	講師	金 禮	平成27年4月	入門韓国語1 入門韓国語2 基礎韓国語1 基礎韓国語2						
兼任	講師	今村 彩子	平成27年4月	手話入門 手話基礎						
兼任	講師	犬塚 文雄	平成28年4月	特別活動論						
兼任	講師	永田 国豊	平成28年4月	生徒・進路指導論						
兼任	講師	吉野 勇夫	平成28年4月	国際文化理解英語1 国際文化理解英語2 ビジネス英語1 ビジネス英語2 アメリカ社会文化論 アメリカ政治経済論 グローバル・ビジネス・コミュニケーション	兼任	講師	吉野 勇夫	平成28年4月	国際文化理解英語1 国際文化理解英語2 ビジネス英語1 ビジネス英語2 アメリカ社会文化論 アメリカ政治経済論 グローバル・ビジネス・コミュニケーション 英会話1 英会話2	教学上の理由により、当該科目の担当者を変更及び追加(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	山之内 健太	平成27年4月	TOEIC英語入門 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2 TOEIC英語実践1 TOEIC英語実践2	兼任	講師	山之内 健太	平成27年4月	TOEIC英語入門 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2 TOEIC英語実践1 TOEIC英語実践2 英語演習1 英語演習2	教学上の理由により、当該科目の担当者を変更及び追加(27)
兼任	講師	イラリオ ロサリオ	平成28年4月	時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2						
兼任	講師	原口 智子	平成27年4月	英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6	兼任	講師	原口 智子	平成27年4月	英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6 英会話1 英会話2	教学上の理由により、当該科目の担当者を変更及び追加(27)
兼任	講師	森 正己	平成28年4月	観光文化論						
兼任	講師	望月 節子	平成28年4月	英文学史 米文学史	兼任	講師	望月 節子	平成28年4月	英文学史 米文学史 英会話1 英会話2	教学上の理由により、当該科目の担当者を変更及び追加(27)
兼任	講師	有田 義之	平成28年4月	地中海文化圏論						
兼任	講師	林 上	平成27年4月	国際地理論						
					兼任	教授	岡澤 憲一郎	平成27年4月	社会学入門 宗教社会学	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	教授	早川 洋行	平成27年4月	社会学入門	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	教授	津田 誠	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	教授	井澤 知旦	平成27年4月	地域商業まちづくり学	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	中島 誠	平成27年4月	心理学概論	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	榎澤 幸広	平成27年4月	日本国憲法 現代社会と法律	教育効果を考慮し、担当教員を追加
					兼任	准教授	黒田 知宏	平成27年4月	現代社会と経済	教学上の理由により、伊沢教授(兼任)から担当変更(27)
					兼任	准教授	村上 寿来	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	松本 浩司	平成27年4月	現代社会と教育	教学上の理由により、矢澤教授(兼任)から担当変更(27)
					兼任	准教授	濱 満久	平成27年4月	地域商業まちづくり学	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	山下 匡将	平成27年4月	ボランティア演習	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	野尻 洋平	平成27年4月	社会学入門	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	越智 祐子	平成27年4月	減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習	教学上の理由により、井澤教授(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	山崎 直美	平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b	教学上の理由により、安藤講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	上本 裕子	平成27年4月	キャリアデザイン1b	教学上の理由により、丹山講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	日沖 直子	平成27年4月	聖書と人間	教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	村山 由美	平成27年4月	死生学 宗教と人間 比較宗教学	教学上の理由により、大宮講師(兼任)他のオムニバスを変更し、単独で科目を担当(27) 教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	神田 浩史	平成27年4月	人権と社会	教学上の理由により、大宮講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	上野 史朗	平成27年4月	日本史	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	坪田 暢允	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	小杉 花代	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2	教学上の理由により、工藤講師(兼任)、野々山講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	高橋 美由紀	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2	教学上の理由により、工藤講師(兼任)、野々山講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	石川 香代子	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2	教学上の理由により、工藤講師(兼任)、野々山講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	湯浅 康正	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2	履修人数の減少により、下村講師(兼任)、鈴木講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	河脇 都美	平成27年4月	基礎フランス語1 基礎フランス語2	履修人数の減少により、下村講師(兼任)、鈴木講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	梅田 美代子	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更
					兼任	講師	木下 智統	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更
					兼任	講師	内田 千重子	平成27年4月	基礎スペイン語1 基礎スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更
					兼任	講師	櫻井 里香	平成27年4月	基礎スペイン語1 基礎スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇学部 △△学科)の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成27年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**,当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成		年齢構成(前年度の状況)	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
8	2	4	0	14	8	2	3	0	13	70	0	-	-
					[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	歳	名	歳	名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成27年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例:1名減の場合:△1)
- ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成27年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
 - ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・ 「年齢構成(前年度の状況)」については、報告書提出の前年度の状況を記載してください。今年度初めて報告書を提出する場合は記入不要ですので、「-」を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
			該当なし。

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（）書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
該当なし。				

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<国際文化学部 国際文化学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし。	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

別添「FD委員会規程」に基づき、全学的なFD委員会の下、国際文化学部FD委員会を設置する。委員会の構成は学部長を委員長とし、4名の専任教員(教務委員と同一)により構成する。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

国際文化学部教務委員会終了後に、年8回の国際文化学部FD委員会を開催する。さらに学部及び全学のFD実践状況を理解し、教員の資質向上に資するための研究・学習・討議等を学部教授会終了後に適宜開催する。

c 委員会の審議事項等

下記の事案について委員会に付議し、活動を開始する予定である。

- ・ 2015年度の活動に関すること

② 実施状況

a 実施内容

以下の取組を実施する。

- ① オフィス・アワーを設ける。
- ② 授業評価アンケートを実施する。
- ③ 教員相互の授業参観を実施する。
- ④ 教職協働による学生フォロー体制を構築する。

b 実施方法

以下の方法で実施をしていく。

- ① 全教員がオフィス・アワーを設け、学生の正課、課外活動の両面のサポートを行う。
- ② 授業評価アンケートを春学期、秋学期にそれぞれ実施し、教員、学生へフィードバックする体制を構築する。
- ③ 教員相互の授業参観では、学内イントラネットで教員に告知する。
参観した教員がアンケートに記入し、教育学習センターにて集計、それを教員間で共有をする。
- ④ クラスアドバイザー制度(学生一人ひとりに教員がつき、学業面や生活面に対して助言する)、学生相談室、学生支援センターを設け、学生の正課、課外活動を多角的な面からフォローする体制を確立する。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

上記①～④の取組みを速やかに実施する予定である。

- ①・・・教員に徹底したうえで、学生に周知済みである。
- ②・・・全学に合わせて実施予定。
- ③④・・・体制の構築中である。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教員相互による授業参観や授業評価アンケートに関する情報を全教員で共有し、適宜授業改善に取り組む。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

2015年度は5月～6月、11月に実施予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

教職員、学生とも、当該部署(教育学習センター・瀬戸キャンパス総合事務部)にて閲覧することが出来る。教員は自身の担当科目を、学内イントラネットでも閲覧出来る。

- (注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「② 実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

グローバル化が進む21世紀は、地域的利害や宗教意識がもたらす様々な地域紛争を引き起こし、地球全体を不安定な状態に置きつつある。また、20世紀に地球規模で顕在化した環境問題、世界を同時に巻き込むように進行する経済的混乱など、世界のあらゆる地域に暮らす人間が等しく地球人として協働し、持続可能な発展に対する妨げも山積している。それ故、様々な社会事情や国際関係、あるいは海外諸言語を個別に学ぶだけでは、真の国際性を有するグローバル人材となることは困難である。すなわち、国際社会の置かれた現状、それぞれの国・地域における文化のあり方や地域固有の生活、教育環境・歴史認識・文化遺産・宗教意識など多様な知識の集積が必要であり、かつ地域的課題やグローバルな諸問題を見出し、その実態を理解し、問題解決につなげる積極的な行動力も求められる。国際文化学部の理念は、本学の社会的使命を継続的に果たすため、広く世界の多様な文化を学び、世界が直面している地球環境の改変や異文化・異民族問題、あるいは宗教対立や政治的紛争が絶え間なく生じている現状に対応できる実践的な能力を有する人材を養成することにある。国際文化学部は、その理念に基づいて以下の諸点を目的として設置された。

①グローバル社会に生起する様々な問題についての確に対応できる多文化理解と持続的社会形成のための思考力・判断力・行動力を身に付ける。②グローバルに展開する社会・経済・文化の持続的発展に貢献する豊かな教養と人間性を養う。③日本文化の基礎を確実に身に付け、多文化理解における比較文化の視点を明確に持たせる。④国際共通語である英語の運用能力を高め、海外での国際協力活動に活かすことができるレベルを目指す。並行して、中国語、ドイツ語、フランス語又はスペイン語のいずれかについて、基本的な会話の運用能力を身に付ける。このように、深い異文化理解に基づいて、海外滞在の適応力を養うとともに、日本国内で暮らす様々な外国籍者とのコミュニケーションや相互文化理解を図る。

このように、国際文化学部の扱う領域は、グローバル社会とは何かという大きな問題意識の下、国際社会の個別地域を対象とした歴史・文化を中心に、社会・政治・経済・宗教・環境など極めて多岐にわたる。そこで、国際文化学部は、力学「国際理解」及び「多文化交流」を中心に展開する国際文化学科と、「文化協力」及び「文化支援」を念頭に置いて国際文化理解教育を実践する国際協力学科の2学科体制とし、学修の方向性を明確に示すこととした。

国際文化学科は、グローバル社会のそれぞれの地域に存在する多様な文化を学ぶことを通して、グローバル社会に生起する様々な問題についての確に対応できる多文化理解と共生可能な持続的社会形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けさせる。さらに、日本文化の基礎を確実に身に付け、多文化理解における比較文化の視点を明確に持たせることを目標とする。また、日本と歴史的にも地政学的にも関係が深く、いまま相互交渉において様々な問題を抱えている中国・韓国を中心としたアジア諸国との関係構築に貢献できる人材の育成も視野に入れる。

平成27年度から学生の受け入れを始めたが、第1回入学生はカリキュラム及び授業計画・時間割に沿って本年度に開講されたすべての科目を受講する環境にあり、少人数学習を基本としつつ計画的に学習を進めている。そこでは全学的に配置されている教養系プログラム「NGU教養スタンダード」による科目を基礎・導入系教育として受講することと、国際文化学科の専門基礎教育を為す科目とを履修することで、国際文化学科学生に必要な入門部分を学修し、大学生としての学びのスタートを切ったところである。その中で「キリスト教概説」「基礎セミナー」の学習を通して本学の建学の精神や歴史を学ぶとともに、地域で生きることを意味を学修し、社会人としてのあるべき姿を学びつつある。また、「NGU教養スタンダード科目」に配置されている多くの科目から自己の意志と希望によって選択された科目についても複数科目の履修がなされており自由な選択と系統的な学習の両面が実感できるような履修がなされている。さらに専門科目としては学部必修の「国際文化論」を学部教育の入門として位置づけ、さらに「国際文化理解実践論1」の履修を通して「スタディツアー」などの実践的学習への連絡が系統的につけられるように学習課程を整備し、多くの学生が選択している。

基礎セミナーは大学生としてスタートを切る重要な第一歩となる科目であり、20名程度のクラスで、教員と学生が相互に顔が見え、かつ適切な学生間の交流・仲間づくりが出来るクラスサイズとして設定された。そこでは授業概要に沿った授業と並行して、クラス全体の自主的かつ創造的な活動が実施され、学生による地域と世界の繋がりを知る「小フィールドワーク」と発表会におけるプレゼンテーションなどをすでに実践的に学習している。国際文化学科の学生にとって必要な知識学習と行動力を醸成する実践的学習がすでにスタートしているのであり、これらをさらに有機的に繋げつつ、計画的に1年次の学習計画を進めているところである。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成27年10月 公表予定

b 公表方法

自己点検・評価報告書『名古屋学院大学の現状と課題』を刊行し、学内外に配布及びホームページで公表する。

③ 認証評価を受ける計画

財団法人大学基準協会の相互評価及び認証評価を受け、平成24年3月に、「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2019（平成31）年3月31日までとする。」との結果を受領している。

(注)・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (年 月 日)

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人名古屋学院大学

(2) 大学名

名古屋学院大学

(3) 大学の位置

名古屋キャンパス白鳥学舎

〒456-8612

愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号

名古屋キャンパス日比野学舎

〒456-0062

愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イナガキ タカシ) 稲垣隆司 (平成24年8月)		
学長	(キブネ ヒサオ) 木船久雄 (平成23年4月)		
学部長	(キムラ コウシン) 木村光伸 (平成27年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成25年度に報告済の内容 → (25)
平成27年度に報告する内容 → (27)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成24年度開設の4年制の学科の場合(平成27年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
国際文化学部 国際協力学科 学士(国際文化)	4年	50人	-人	200人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員超過率	開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	50 (-) [-]								0.86倍	- 倍	
志願者数	161 (-) [-]	- (-) [-]									
受験者数	156 (-) [-]	- (-) [-]									
合格者数	125 (-) [-]	- (-) [-]									
B 入学者数	43 (-) [-]	- (-) [-]									
入学定員超過率 B/A	0.86										

- (注) ・ 数字は, 平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年度で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率」は, 完成年度を越えて報告書を提出する大学(「改善意見等対応状況報告書」を提出する大学)のみ記入してください。「設置計画履行状況等報告書」の場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[1] (-) 43	[-] (-) -	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	
計	[1] (-) 43	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	

- (注) ・ 数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成27年度 入学者	43 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人		0.0 %
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	0 人	平成28年度	人	人		%
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
平成29年度 入学者	人	0 人	平成29年度	人	人		%
			平成30年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		%
合 計	43 人	0 人					0.0 %

(注)・数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成27年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下	・学力不足	・他の教育機関への入学・転学	・海外留学	
・就職	・学生個人の心身に関する事情	・家庭の事情	・除籍	・その他

2 授業科目の概要

<国際文化学部 国際協力学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
N G U 教 養 ス タ ン ダ ー ド 科 目	キリスト教概説	1前	2									兼1		
	キリスト教概説	1後	2									兼1		
	キリスト教と文学	2・3・4前		2								兼1		
	キリスト教と文化	2・3・4後		2								兼1		
	キリスト教倫理	2・3・4前		2								兼1		
	キリスト教史	1・2・3・4後		2								兼1		
	自己理解と自己開発	基礎セミナー	1前	2			4 3	1	3					石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)
		発展セミナー	1後	2			4 3	1	3					石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)
		キャリアデザイン1a	1前	2									兼1 兼2	履修人数の減少により担当者数を変更
		キャリアデザイン1b	1後	2									兼1 兼2	履修人数の減少により担当者数を変更
		キャリアデザイン2a	2前	2									兼3	
		キャリアデザイン2b	2後	2									兼3	
		キャリアデザイン3a	3前	2									兼1	
		キャリアデザイン3b	3後	2									兼1	
		ボランティア学	1・2・3・4前	2									兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		ボランティア演習	1・2・3・4後	2									兼3 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27) ※実習
	インターンシップ1	1・2・3・4前・後	2									兼1	集中	
	インターンシップ2	1・2・3・4前・後	2									兼1	集中	
	人間理解	哲学	1・2・3・4前	2									兼1	
		哲学史	1・2・3・4後	2									兼1	
		日本文学	1・2・3・4前	2									兼1	
		日本文学史	1・2・3・4後	2									兼1	
		心理学概論	1・2・3・4前・後	2									兼3 兼2	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		文明論	1・2・3・4後	2									兼1	
		宗教と人間	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2									兼1	教育効果を考慮し、開講時期を変更(27)
		聖書と人間	1・2・3・4前	2									兼2 兼1	教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)
		キリスト教人間学	2・3・4前	2									兼1	
死生学		1・2・3・4前	2									兼1 兼3	教学上の理由により、兼任講師1名に担当変更(27) ホム→ホス	
臨床心理学	1・2・3・4前・後	2									兼1			
社会的教養	社会学入門	1・2・3・4前	2									兼4 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	宗教社会学	1・2・3・4前・後	2									兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	比較宗教学	1・2・3・4後	2									兼1		
	日本国憲法	1・2・3・4前・後	2									兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	現代社会と法律	1・2・3・4前・後	2									兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	現代社会と経済	1・2・3・4前・後	2									兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を変更及び追加(27)	
	企業と社会	1・2・3・4前・後	2									兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	国際関係論入門	1・2・3・4後	2				1							
	国際政治学	1・2・3・4前	2				1							
	国際社会問題	1・2・3・4前・後	2									兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
社会理解	現代社会と教育	1・2・3・4後	2				1					兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	平和学入門	1・2・3・4前・後	2									兼1		
	人権と社会	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後	2									兼1	教学上の理由により、開講時期を変更	
	自然理解	数学	1・2・3・4前	2								兼1		
	数理科学	1・2・3・4後	2								兼1			
	基礎統計学	1・2・3・4前	2								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
N G U 教 養 ス タ ン ダ ー ド 科 目	自然理解	実用統計学	1・2・3・4後	2								兼1
		化学	1・2・3・4前	2								兼1
		生物学	1・2・3・4前・後	2								兼1
		地球科学概論	1・2・3・4前	2								兼1
		地球物理学概論	1・2・3・4後	2								兼1
		人類学	1・2・3・4前	2								兼1
		物理学	1・2・3・4後	2								兼1
		生命倫理	1・2・3・4後	2								兼1 兼2 教学上の理由により、兼任講師1名に担当変更(27) オムニバス
	歴史文化理解	日本史	1・2・3・4前	2								兼1
		日本思想史	1・2・3・4前・後	2								兼1
		中国文化入門	1・2・3・4前	2								兼1
		英米文化入門	1・2・3・4後	2								兼1
		文化人類学入門	1・2・3・4後	2								兼2
		世界の近現代史	1・2・3・4前	2								兼1
		世界史	1・2・3・4後	2								兼1
		考古学入門	1・2・3・4後	2								兼1
		陶芸論	1・2・3・4前	2								兼1
		陶芸演習	1・2・3・4後	2								兼1
	環境理解	環境科学	1・2・3・4前	2								兼1 未開講(27)
		生態学	1・2・3・4前・後	2			1					
		地球環境学	1・2・3・4前	2								兼1
	身体理解	健康の科学	1・2・3・4前・後	2								兼1
		スポーツの科学	1・2・3・4前・後	2								兼1
		スポーツ初級A	1・2・3・4前・後	1								兼4 兼2 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		スポーツ初級B	1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	1								兼4 兼2 教学上の理由により、開講時期を変更。 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		スポーツ中級A	2・3・4前・後	1								兼2
		スポーツ中級B	2・3・4前・後	1								兼3
		スポーツ上級A	3・4前・後	1								兼1
		スポーツ上級B	3・4後	1								兼1
	地域理解	地域商業まちづくり学	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後	2								兼3 兼1 教学上の理由により、開講時期を変更。 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		歴史観光まちづくり学	1・2・3・4前・後	2								兼1
		減災福祉まちづくり学	1・2・3・4前・後	2								兼1
		地域商業まちづくり演習	1・2・3・4後	2								兼1
		歴史観光まちづくり演習	1・2・3・4後	2								兼1
		減災福祉まちづくり演習	1・2・3・4後	2								兼1
		上級まちづくり演習	2・3・4前・後	2								兼3
	言語とコミュニケーション	日本語表現	1前・後	2								兼1
		日本語表現上級	1前・後	2								兼3
		基礎英語1	1前	1				1				兼1
		基礎英語2	1後	1				1				兼1
		英会話1	1前	1								兼2 兼3 履修人数の減少により担当者数を変更
		英会話2	1後	1								兼2 兼3 履修人数の減少により担当者数を変更
入門ドイツ語1		1前	1								兼1	
入門ドイツ語2		1後	1								兼1	
基礎ドイツ語1		1前	1								兼1	
基礎ドイツ語2		1後	1								兼1	
入門フランス語1		1前	1								兼2 兼3 履修人数の減少により担当者数を変更	
入門フランス語2		1後	1								兼2 兼3 履修人数の減少により担当者数を変更	
基礎フランス語1		1前	1								兼2 兼3 履修人数の減少により担当者数を変更	
基礎フランス語2		1後	1								兼2 兼3 履修人数の減少により担当者数を変更	
入門スペイン語1		1前	1								兼2	
入門スペイン語2	1後	1								兼2		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
N G U 教 養 ス タ ン ダ ー ド 科 目	基礎スペイン語1	1前		1								兼2	
	基礎スペイン語2	1後		1								兼2	
	入門中国語1	1前		1			1					兼1 兼2 兼3 当初2名の予定であったが3名と誤記載。 履修人数の減少により担当者数を変更	
	入門中国語2	1後		1			1					兼1 兼2 兼3 当初2名の予定であったが3名と誤記載。 履修人数の減少により担当者数を変更	
	基礎中国語1	1前		1								兼2	
	基礎中国語2	1後		1								兼2	
	入門韓国語1	1前		1								兼1	
	入門韓国語2	1後		1								兼1	
	基礎韓国語1	1前		1								兼1	
	基礎韓国語2	1後		1								兼1	
	手話入門	1後 1前		1								兼1 教学上の理由により、開講時期を変更	
	手話基礎	1後		1								兼1	
	情報	情報処理基礎	1前	2									兼1
	情報	情報概論	2後		2								兼1
	教 職	教職論	1後		2		1						
		教育原理	1後		2		1						
		教育心理学概論1	1前		2								兼1
		教育心理学概論2	1後		2								兼1
		教育制度論	1前		2		1						
特別活動論		2前		2								兼1	
教育の方法と技術		2後		2								兼1	
道徳教育論		2後		2								兼1	
生徒・進路指導論		2後		2								兼1	
教育相談		2前		2								兼1	
学 部 共 通 科 目		国際文化理解英語1	2前		1								兼1
	国際文化理解英語2	2後		1								兼1	
	留学英語中級	2前		1								兼1	
	留学英語上級	2後		1								兼1	
	TOEIC英語入門	1後		1								兼1	
	TOEIC英語基礎1	2前		1								兼1	
	TOEIC英語基礎2	2後		1								兼1	
	TOEIC英語実践1	2前		1								兼1	
	TOEIC英語実践2	2後		1								兼1	
	ビジネス英語1	2前		1								兼1	
	ビジネス英語2	2後		1								兼1	
	時事ドイツ語1	2前		1								兼1	
	時事ドイツ語2	2後		1								兼1	
	応用ドイツ語1	2前		1								兼1	
	応用ドイツ語2	2後		1								兼1	
	実践ドイツ語1	3前		1								兼1	
	実践ドイツ語2	3後		1								兼1	
	時事フランス語1	2前		1								兼1	
	時事フランス語2	2後		1								兼1	
	応用フランス語1	2前		1								兼1	
	応用フランス語2	2後		1								兼1	
	実践フランス語1	3前		1								兼1	
	実践フランス語2	3後		1								兼1	
	時事スペイン語1	2前		1								兼3	
	時事スペイン語2	2後		1								兼3	
	応用スペイン語1	2前		1								兼3	
	応用スペイン語2	2後		1								兼3	
	実践スペイン語1	3前		1								兼3	
	実践スペイン語2	3後		1								兼3	
	時事中国語1	2前		1								兼3	
	時事中国語2	2後		1								兼3	
	応用中国語1	2前		1								兼3	
	応用中国語2	2後		1								兼3	
	実践中国語1	3前		1			1					兼1	
	実践中国語2	3後		1			1					兼1	
	コミュニケーション中国語1	1前		1								兼1	
	コミュニケーション中国語2	1後		1								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部共通科目	国際コミュニケーション	ビジュアル中国語	2後	1							兼1		
		日常中国語1	2前	1							兼1		
		日常中国語2	2後	1							兼1		
		中国語検定読解入門	3前	1							兼1		
		アジア言語入門1	2前	1		1							
		アジア言語入門2	2後	1				1					
		コンピュータ技法1	2前	2							兼1		
		コンピュータ技法2	2後	2							兼1		
	国際理解科目		国際文化論	1前	2		1					兼2	オムニバス
			キリスト教文化論1	2前	2							兼1	
		キリスト教文化論2	2後	2							兼1		
		文化人類学	1前	2							兼1		
		グローバル社会文化論	1後	2		1					兼1	オムニバス	
		日本史概説	1前	2							兼2		
		日本文化論	1後	2							兼1		
		比較宗教論	2前	2							兼1		
		宗教と平和	2後	2							兼1		
		国際環境論	2前	2		1							
学科基幹科目		英語演習1	1前	1				1			兼2	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
		英語演習2	1後	1				1			兼2	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
		英語演習3	2前	1				1					
		英語演習4	2後	1				1					
		英語演習5	2前	1				1					
		英語演習6	2後	1				1					
		国際関係論	2前	2		1							
		国際協力論	2後	2		1		1				石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)	
		国際文化支援論	2後	2							兼1		
		国際地理論	1後	2							兼1		
国際文化協力展開科目		開発社会学	2前	2		1							
		文化交流論	2前	2		1							
		国際社会学	2前	2				1					
		マイノリティ論	2前	2		1							
		ジェンダー論	2前	2		2		1					
		国際移民論	2前	2				1					
		日中関係論	2前	2			1						
		アジア政治論	2後	2				1					
		国際機構論	2前	2		1					兼1	教育効果を考慮し、長田専任教授に担当変更(27)	
		平和学	2後	2							兼1		
国際文化支援展開科目		農村発展論	2前	2				1					
		アジア経済論	2後	2							兼1		
		国際企業論	3前	2				1					
		文化変容論	3前	2		1							
		アジア地域研究1	3前	2		1							
		アジア地域研究2	3後	2				1					
		文化マネジメント論	2前	2				1					
		多文化共生社会論	2後	2		1							
		異文化コミュニケーション論	2前	2							兼1		
		多文化教育論	2後	2		1							
国際文化関連科目		世界遺産と保全	3前	2		1							
		国際環境文化論	3後	2		1							
		国際人権論	2後	2				1					
		比較地域生活史	3前	2		1							
		企業文化論	3後	2							兼1		
		比較文化・社会論1	2前	2							兼1		
		比較文化・社会論2	2後	2							兼1		
		メディア文化論	2前	2							兼1		
		観光文化論	2後	2							兼1		
		現代アジア文化社会論	2前	2		1							
国際文化支援展開科目		韓国文化社会論	2後	2							兼1		
		アメリカ社会文化論	2前	2							兼1		
		アメリカ政治経済論	2後	2							兼1		
		ヨーロッパ文化総論	2前	2							兼1		
		環太平洋地域文化論	3前	2		2						オムニバス	
		イスラム文化圏論	3後	2							兼1		
		開発経済学	2後	2				1					
		国際福祉論	2前	2		1					兼1	教育効果を考慮し、長田専任教授に担当変更(27)	
		NPO・NGO論	2後	2				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際 科目 文化 関連 留 替 学 科 単 位 演 習 科 目	英米文学概論1	2前		2								兼1
	英米文学概論2	2後		2								兼1
	英米文学講義1	2前		2								兼1
	英米文学講義2	2後		2								兼1
	英文学史	2後		2								兼1
	米文学史	2後		2								兼1
	海外事情1	1・2・3・4前・後		2		1						集中
	海外事情2	1・2・3・4前・後		2		1						集中
	海外事情3	1・2・3・4前・後		2		1						集中
	海外事情4	1・2・3・4前・後		2		1						集中
	国際協力実践論1	1・2・3前		2		3 2	1	3				石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)
	国際協力実践論2	1・2・3後		2		3 2	1	3				石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)
	国際協力基礎演習1	2前	2			4 3	1	3				石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)
	国際協力基礎演習2	2後	2			4 3	1	3				石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)
	国際協力演習	3~4通	8			5 4	1	3				石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 22	科目 218	科目 0	科目 240	科目 [0]	科目 [0]	科目 [0]	科目 [0]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	環境科学	2	1・2・3・4	一般	選択	兼任講師の本務の都合により科目担当ができなかったため、今年度未開講とした。代替措置なし。次年度開講予定で調整を進めている。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「環境科学」については、兼任講師の本務の都合により未開講とした。上記科目の配当年次は1・2・3・4年次であり、次年度以後も履修が可能である。現在、次年度開講に向けて担当者を選考中であるので、大きな問題はない。学生に対しては履修登録システムにおいて周知をしている。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	その他に校舎敷地とする空地を含んでいたため訂正した。また、その他に法人所有地を含んでいたため控除した。(27)			
	校舎敷地	225,418.99 144,021.00 m ²	0 m ²	0 m ²	225,418.99 144,021.00 m ²				
	運動場用地	83,493.78 81,632.00 m ²	0 m ²	0 m ²	83,493.78 81,632.00 m ²				
	小 計	308,912.77 225,653.00 m ²	0 m ²	0 m ²	308,912.77 225,653.00 m ²				
	そ の 他	64,445.76 181,773.53 m ²	0 m ²	0 m ²	64,445.76 181,773.53 m ²				
	合 計	373,358.53 407,426.53 m ²	0 m ²	0 m ²	373,358.53 407,426.53 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	平成27年1月竣工の新校舎の面積を、建築面積から登記上の面積に修正した。			
		74,094.01m ² 74,102.73m ² (74,094.01m ²) (74,102.73m ²)	0m ² (0m ²)	0m ² (0m ²)	74,094.01m ² 74,102.73m ² (74,094.01m ²) (74,102.73m ²)				
(3) 教 室 等		講 義 室 95室	演 習 室 82室	実験実習室 27室	情報処理学習施設 6室 (補助職員 0人)	語学学習施設 8室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 国際文化学部国際協力学科		室 数 10 9	室	平成27年4月、専任教員1名を新規採用のため(27)			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点		
								国際文化学部	(111,019[32,647]) (111,019[32,647])
	計	(111,019[32,647]) (111,019[32,647])	(1,060[495]) (1,060[495])	(400[400]) (400[400])	1,898 (1,642)	1,612 (1,612)	0		
(6) 図 書 館		面 積 5,907.13 m ²	閱 覧 座 席 数 778	収 納 可 能 冊 数 550,000					
(7) 体 育 館		面 積 6,711.52 m ²	体育館以外のスポーツ施設の概要 野球場1面、屋内プール1面、テニスコート17面、ゴルフ練習場1面他						
経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費は大学全体で配分
		教員1人当り研究費等	680千円	680千円	図書購入費	5,270千円	5,270千円	5,270千円	
	共同研究費等	3,697千円	3,697千円	設備購入費	0千円	0千円	0千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次 1,370千円	第2年次 1,090千円	第3年次 1,090千円	第4年次 1,090千円	第5年次 千円	第6年次 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入、手数料収入、資産運用収入、雑収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成27年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(27)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋学院大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
経済学部						1.06			
経済学科	4	300	10	1,160	学士(経済学)	1.06	昭和39年度	愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号	平成27年度より3年次編入学定員(10)廃止、入学定員を300から250に変更。
総合政策学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成12年度	同 上	平成27年度より学生募集停止
現代社会学部									
現代社会学科	4	150	-	150	学士(現代社会)	0.80	平成27年度	同 上	
商学部						1.09			
商学科	4	200	-	805	学士(商学)	1.12	平成4年度	同 上	平成27年度より3年次編入学定員(5)廃止
経営情報学科	4	100	-	400	学士(商学)	1.03	平成15年度	同 上	
法学部						1.09			
法学科	4	150	-	450	学士(法学)	1.09	平成25年度	同 上	
外国語学部						1.16			
英米語学科	4	140	-	560	学士(文学)	1.16	平成元年度	同 上	
中国コミュニケーション学科	4	-	-	200	学士(文学)	-	平成元年度	同 上	平成27年度より学生募集停止
国際文化協力学科	4	-	-	200	学士(文学)	-	平成17年度	同 上	平成27年度より学生募集停止
国際文化学部						0.90			
国際文化学科	4	100	-	100	学士(文学)	0.93	平成27年度	同 上	
国際協力学科	4	50	-	50	学士(文学)	0.86	平成27年度	同 上	
スポーツ健康学部									
スポーツ健康学科	4	120	-	480	学士(スポーツ健康)	1.25	平成22年度	愛知県瀬戸市上品野町1350番地	
こどもスポーツ教育学科	4	50	-	50	学士(こどもスポーツ教育)	0.24	平成27年度	同 上	
リハビリテーション学部									
理学療法学科	4	80	-	320	学士(理学療法)	1.11	平成22年度	同 上	

大学の名称	名古屋学院大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍			
経済経営研究科									
経済学専攻 修士課程	2	7	-	14	修士 (経済学)	1.49	平成9年度	愛知県名古屋市熱田 区大宝三丁目1番17 号	
経営政策専攻 博士前期課程	2	20	-	40	修士 (経営学)	1.15	平成9年度	同上	
経営政策専攻 博士後期課程	3	5	-	15	博士 (経営学)	0.46	平成11年度	同上	
外国語学研究科									
英語学専攻 修士課程	2	7	-	14	修士 (英語学)	0.42	平成9年度	同上	
国際文化協力専攻 修士課程	2	5	-	10	修士 (国際文化 協力)	0.40	平成21年度	同上	
英語学専攻 博士前期課程 (通信教育課程)	2	20	-	40	修士 (英語学)	0.77	平成13年度	同上	
英語学専攻 博士後期課程 (通信教育課程)	3	3	-	9	博士 (英語学)	0.77	平成20年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成27年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合(平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<国際文化学部 国際協力学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授(学部長)	木村 光伸	平成27年4月	生態学 グローバル社会文化論 ※ 国際環境論 文化交流論 世界遺産と保全 国際環境文化論 比較地域生活史 環太平洋地域文化論 ※ 海外事情1 海外事情2 海外事情3 海外事情4 国際協力演習						
専	教授	増田 あゆみ	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 国際関係論入門 国際政治学 国際関係論 マイノリティ論 文化変容論 アジア地域研究1 環太平洋地域文化論 ※ 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習						
専	教授	矢澤 雅	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 現代社会と教育 教職論 教育原理 教育制度論 多文化教育論 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習	専	教授	矢澤 雅	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 現代社会と教育 教職論 教育原理 教育制度論 多文化教育論 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習	教学上の理由により、今年度、松本准教授(兼任)が担当(27)
専	教授	佐竹 眞明	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー アジア言語入門1 国際文化論 ※ 開発社会学 多文化共生社会論 現代アジア文化社会論 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習						
					専	教授	長田 こずえ	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 国際協力論 国際機構論 国際福祉論 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習	石崎講師が病気療養中につき、左記科目の担当として採用し、教育の質の維持を図った(27)
専	准教授	中田 昭一	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 入門中国語1 入門中国語2 実践中国語1 実践中国語2 日中関係論 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	工藤 泰三	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6						
専	講師	佐伯 奈津子	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー アジア言語入門2 アジア政治論 アジア地域研究2 NPO・NGO論 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習						
専	講師	石崎 程之	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 国際協力論 農村発展論 国際企業論 開発経済学 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習						病気療養中のため、現在「基礎セミナー」「発展セミナー」を長田教授が担当。「国際協力論」「国際協力実践論1・2」「国際協力基礎演習1・2」「国際協力演習」も長田教授に移行予定。「農村発展論」「国際企業論」「開発経済学」は後任未定であり現在調整中(27)
専	講師	人見 泰弘	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 国際社会学 ジェンダー論 国際移民論 文化マネジメント論 国際人権論 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習						
兼任	教授	水野 晶夫	平成27年4月	ボランティア学 地域商業まちづくり学 地域商業まちづくり演習 上級まちづくり演習						
兼任	教授	松永 公廣	平成27年4月	インターンシップ1 インターンシップ2						
兼任	教授	持田 辰郎	平成27年4月	哲学 哲学史						
兼任	教授	早川 厚一	平成27年4月	日本文学 日本文学史						
兼任	教授	谷口 篤	平成27年4月	心理学概論 教育心理学概論1 教育心理学概論2 教育の方法と技術 教育相談						
兼任	教授	今村 薫	平成27年4月	文明論 人類学 文化人類学入門						
兼任	教授	伊沢 俊泰	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会	兼任	教授	伊沢 俊泰	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会	教学上の理由により、黒田准教授(兼任)、村上准教授(兼任)に担当変更(27)
兼任	教授	宝島 格	平成27年4月	数学 数理学 基礎統計学						
兼任	教授	秋元 浩一	平成27年4月	実用統計学						
兼任	教授	曾我 良成	平成27年4月	日本史 日本史概説 日本文化論	兼任	教授	曾我 良成	平成27年4月	日本史 日本史概説 日本文化論	

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	荻原 隆	平成27年4月	日本思想史						
兼任	教授	黄 名時	平成27年4月	中国文化入門 考古学入門 実践中国語1 実践中国語2 国際文化論 ※ 英米文化入門						
兼任	教授	菅野 光公	平成27年4月							
兼任	教授	井澤 知且	平成27年4月	減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習 上級まちづくり演習	兼任	教授	井澤 知且	平成27年4月	地域商業まちづくり学 減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習 上級まちづくり演習	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27) 教学上の理由により、越智講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	教授	近藤 泉	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2 時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 日常中国語1 日常中国語2						
兼任	教授	程 鵬	平成27年4月	情報処理基礎 情報概論						
兼任	教授	土屋 勝彦	平成27年4月	応用ドイツ語1 応用ドイツ語2 国際文化論 ※ グローバル社会文化論 ※ 比較文化・社会論1 ヨーロッパ文化総論	兼任	教授	土屋 勝彦	平成27年4月	応用ドイツ語1 応用ドイツ語2 国際文化論 ※ グローバル社会文化論 ※ 比較文化・社会論1 ヨーロッパ文化総論 入門ドイツ語1 入門ドイツ語2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員に変更(27)
兼任	教授	樋口 勇夫	平成27年4月	時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 コミュニケーション中国語1 コミュニケーション中国語2	兼任	教授	樋口 勇夫	平成27年4月	時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 コミュニケーション中国語1 コミュニケーション中国語2 基礎中国語1 基礎中国語2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員に変更(27)
兼任	教授	原田 寿美子	平成28年4月	時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 ビジュアル中国語 中国語検定読解入門 コンピュータ技法1 コンピュータ技法2	兼任	教授	原田 寿美子	平成28年4月	時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 ビジュアル中国語 中国語検定読解入門 コンピュータ技法1 コンピュータ技法2 基礎中国語1 基礎中国語2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員に変更(27)
兼任	教授	鹿毛 敏夫	平成27年4月	日本史概説						
兼任	教授	Ray Thomas Donahue	平成28年4月	異文化コミュニケーション論						
兼任	教授	十名 直喜	平成29年9月	企業文化論						
兼任	教授	Paul Dveraux McGrath	平成28年4月	英米文学概論1 英米文学講義1 英米文学講義2						
兼任	教授	米山 雅浩	平成28年4月	英米文学概論2						
兼任	准教授	大宮 有博	平成27年4月	ボランティア演習 死生学※ 人権と社会 生命倫理※ 道德教育論	兼任	准教授	大宮 有博	平成27年4月	ボランティア演習 死生学※ 人権と社会 生命倫理※ 道德教育論 ボランティア学 聖書と人間	教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)、生命倫理は亀井講師(兼任)の単独担当に変更。人権と社会は神田講師(兼任)に変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	金 愛慶	平成27年4月	臨床心理学 韓国文化社会論						
兼任	准教授	飯島 滋明	平成27年4月	平和学入門 平和学						
兼任	准教授	鈴木 啓司	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 応用フランス語1 応用フランス語2 比較文化・社会論2						
兼任	准教授	新多 了	平成28年4月	留学英語中級						
兼任	准教授	山本 淑雄	平成28年4月	時事ドイツ語1 時事ドイツ語2	兼任	准教授	山本 淑雄	平成28年4月	時事ドイツ語1 時事ドイツ語2 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員に変更(27)
兼任	准教授	河原林 直人	平成28年4月	アジア経済論						
兼任	講師	黒柳 志仁	平成27年4月	キリスト教概説 キリスト教文化論1 キリスト教文化論2 比較宗教論 宗教と平和						
兼任	講師	安藤 りか	平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b キャリアデザイン3a キャリアデザイン3b	兼任	講師	安藤 りか	平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b キャリアデザイン3a キャリアデザイン3b	教学上の理由により、キャリアデザイン1aは石井講師(兼任)、キャリアデザイン1bは上本講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	江利川 良枝	平成28年4月	キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b						
兼任	講師	玉川 貴子	平成27年4月	死生学※	兼任	講師	玉川 貴子	平成27年4月	死生学※ ボランティア演習	教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)の単独担当に変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	講師	宮坂 清	平成27年4月	社会学入門 宗教社会学 文化人類学入門 文化人類学						
兼任	講師	斉藤 久美子	平成27年4月	生物学						
兼任	講師	小林 記之	平成27年4月	地球科学概論 地球物理学概論 物理学 地球環境学						
兼任	講師	吉田 達矢	平成27年4月	世界の近現代史 世界史 イスラム文化圏論	兼任	講師	吉田 達矢	平成27年4月	世界の近現代史 世界史 イスラム文化圏論 国際社会問題	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	講師	伊藤 幹	平成27年4月	健康の科学 スポーツの科学 スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B スポーツ上級A スポーツ上級B						
兼任	講師	田中 智麻	平成27年4月	歴史観光まちづくり学 歴史観光まちづくり演習 上級まちづくり演習						
兼任	講師	玉田 沙織	平成27年4月	日本語表現上級	兼任	講師	濱野 寛子	平成27年4月	日本語表現上級	玉田講師自己都合退職により、担当者を変更(27)
兼任	講師	川越 めぐみ	平成27年4月	日本語表現上級						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	市川 新剛	平成28年4月	留学英語上級						
兼任	講師	野尻 洋平	平成28年4月	メディア文化論						
兼任	講師	北垣 創	平成27年4月	キリスト教と文学 キリスト教史						
兼任	講師	志村 真	平成27年4月	キリスト教と文化 宗教と人間 聖書と人間 比較宗教学	兼任	講師	志村 真	平成27年4月	キリスト教と文化 宗教と人間 聖書と人間 比較宗教学	教学上の理由により、宗教と人間・比較宗教学は村山講師(兼任)、聖書と人間は大宮准教授(兼任)・日沖講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	石田 聖実	平成28年4月	キリスト教倫理 キリスト教人間学						
兼任	講師	石井 邦彦	平成27年4月	キャリアデザイン1a						
兼任	講師	丹山 美香	平成27年4月	キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	兼任	講師	丹山 美香	平成27年4月	キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	上本講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	加藤 智宏	平成27年4月	心理学概論						
兼任	講師	亀井 美穂	平成27年4月	死生学※ 生命倫理※	兼任	講師	亀井 美穂	平成27年4月	死生学※ 生命倫理※	教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)の単独担当に変更、生命倫理はオムニバスから単独担当に変更(27)
兼任	講師	玉木 満	平成27年4月	日本国憲法 現代社会と法律						
兼任	講師	中原 聖乃	平成27年4月	国際社会問題						
兼任	講師	長 昌史	平成27年4月	化学						
兼任	講師	八木 三生	平成27年4月	陶芸論 陶芸演習						
兼任	講師	稲垣 隆司	平成27年4月	環境科学			後任未定			本務の関係で科目担当ができず、未開講。次年度からの就任が難しいため、現在、後任(兼任)を選考中(27)
兼任	講師	米川 直樹	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級B						
兼任	講師	市野 聖治	平成28年4月	スポーツ中級A スポーツ中級B						
兼任	講師	河村 英子	平成27年4月	日本語表現						
兼任	講師	永井 圭司	平成27年4月	日本語表現上級						
兼任	講師	野々山 富士江	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2	兼任	講師	石川 香代子	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2	教学上の理由により、担当者の変更
兼任	講師	N. ルツ	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	N.ルツ	平成27年4月	英会話1 英会話2	
兼任	講師	M.A.ダアノイ	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	M.A.ダアノイ	平成27年4月	英会話1 英会話2	履修者数の減少により、望月講師(兼任)・吉野講師(兼任)に担当変更(27)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	G. M. マクレラン	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	G. M. マクレラン	平成27年4月	英会話1 英会話2	履修者数の減少により、望月講師(兼任)・吉野講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	保坂 和宣	平成27年4月	入門ドイツ語1 入門ドイツ語2 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2 実践ドイツ語1 実践ドイツ語2	兼任	講師	保坂 和宣	平成27年4月	入門ドイツ語1 入門ドイツ語2 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2 実践ドイツ語1 実践ドイツ語2	教育効果を考慮し、入門ドイツ語1.2は土屋教授(兼任)、基礎ドイツ語1.2は山本准教授(兼任)に担当変更
兼任	講師	下村 武	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2	兼任	講師	下村 武	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2	教育効果を考慮し、入門フランス語1.2は鈴木准教授(兼任)・湯浅講師(兼任)、基礎フランス語1.2は鈴木准教授(兼任)・河脇講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	鈴木 球子	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2	兼任	講師	鈴木 球子	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2	
兼任	講師	重松 由美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	重松 由美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、入門スペイン語1.2は梅田講師(兼任)・木下講師(兼任)、基礎スペイン語1.2は内田講師(兼任)・櫻井講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	寺澤 宏美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	寺澤 宏美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	
兼任	講師	史 念	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2	兼任	講師	史 念	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2	履修人数の減少により、中田准教授(専任)・近藤教授(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	王 麗英	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	兼任	講師	王 麗英	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	教育効果を考慮し、基礎中国語1.2は原田教授(兼任)・樋口教授(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	陳 泰銀	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	兼任	講師	陳 泰銀	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	
兼任	講師	金 檉	平成27年4月	入門韓国語1 入門韓国語2 基礎韓国語1 基礎韓国語2						
兼任	講師	今村 彩子	平成27年4月	手話入門 手話基礎						
兼任	講師	犬塚 文雄	平成28年4月	特別活動論						
兼任	講師	永田 国豊	平成28年4月	生徒・進路指導論						
兼任	講師	吉野 勇夫	平成28年4月	国際文化理解英語1 国際文化理解英語2 ビジネス英語1 ビジネス英語2 アメリカ社会文化論 アメリカ政治経済論	兼任	講師	吉野 勇夫	平成28年4月	国際文化理解英語1 国際文化理解英語2 ビジネス英語1 ビジネス英語2 アメリカ社会文化論 アメリカ政治経済論 英会話1 英会話2	履修人数の減少により、当該科目の担当者として変更(27)
兼任	講師	山之内 健太	平成27年4月	TOEIC英語入門 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2 TOEIC英語実践1 TOEIC英語実践2	兼任	講師	山之内 健太	平成27年4月	TOEIC英語入門 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2 TOEIC英語実践1 TOEIC英語実践2	教学上の理由により、TOEIC英語入門は原口講師(兼任)に担当変更

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	イラリオ ロサリオ	平成28年4月	時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2						
兼任	講師	高橋 晃子	平成28年4月	国際文化支援論 国際機構論						
兼任	講師	林 上	平成27年4月	国際地理論						
兼任	講師	森 正己	平成28年4月	観光文化論						
兼任	講師	島津侑希	平成28年4月	国際福祉論						
兼任	講師	望月 節子	平成28年4月	英文学史 米文学史	兼任	講師	望月 節子	平成28年4月	英文学史 米文学史 英会話1 英会話2	履修人数の減少により、当該科目の担当者として変更(27)
					兼任	教授	岡澤 憲一郎	平成27年4月	社会学入門 宗教社会学	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	教授	早川 洋行	平成27年4月	社会学入門	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	教授	津田 誠	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	教授	井澤 知旦	平成27年4月	地域商業まちづくり学	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	中島 誠	平成27年4月	心理学概論	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	榎澤 幸広	平成27年4月	日本国憲法 現代社会と法律	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	黒田 知宏	平成27年4月	現代社会と経済	教学上の理由により、伊沢教授(兼任)から担当変更(27)
					兼任	准教授	村上 寿来	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	濱 満久	平成27年4月	地域商業まちづくり学	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	松本 浩司	平成27年4月	現代社会と教育	教学上の理由により、矢澤教授(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	山下 匡将	平成27年4月	ボランティア演習	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	野尻 洋平	平成27年4月	社会学入門	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	越智 祐子	平成27年4月	減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習	教学上の理由により、井澤教授(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	上本 裕子	平成27年4月	キャリアデザイン1b	履修人数の減少により、安藤講師(兼任)、丹山講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	日沖 直子	平成27年4月	聖書と人間	教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	村山 由美	平成27年4月	死生学 宗教と人間 比較宗教学	教学上の理由により、大宮講師(兼任)他のオムニバスを変更し、単独で科目を担当(27) 教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	神田 浩史	平成27年4月	人権と社会	教学上の理由により、大宮講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	上野 史朗	平成27年4月	日本史	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	坪田 暢允	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	小杉 花代	平成27年4月	英語演習1 英語演習2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	湯浅 康正	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2	履修人数の減少により、下村講師(兼任)、鈴木講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	河脇 都美	平成27年4月	基礎フランス語1 基礎フランス語2	履修人数の減少により、下村講師(兼任)、鈴木講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	梅田 美代子	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更
					兼任	講師	木下 智統	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更
					兼任	講師	内田 千重子	平成27年4月	基礎スペイン語1 基礎スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更
					兼任	講師	櫻井 里香	平成27年4月	基礎スペイン語1 基礎スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更
					兼任	講師	原口 智子	平成27年4月	TOEIC英語入門 英語演習1 英語演習2	教学上の理由により、TOEIC英語入門を山之内講師(兼任)から担当変更。教育効果を考慮し、英語演習1, 2の担当教員として追加(27)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇学部 △△学科)の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成27年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成		年齢構成(前年度の状況)	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
4	1	4	0	9	5	1	4	0	10	70	0	-	-
					[+1]	[0]	[0]	[0]	[+1]	歳	名	歳	名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成27年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
- ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成27年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
 - ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・ 「年齢構成(前年度の状況)」については、報告書提出の前年度の状況を記載してください。今年度初めて報告書を提出する場合は記入不要ですので、「-」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
該当なし				

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<国際文化学部 国際協力量科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし。	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

- ① 実施体制
- a 委員会の設置状況
別添「FD委員会規程」に基づき、全学的なFD委員会の下、国際文化学部FD委員会を設置する。委員会の構成は学部長を委員長とし、4名の専任教員（教務委員と同一）により構成する。
- b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）
国際文化学部教務委員会終了後に、年8回の国際文化学部FD委員会を開催する。さらに学部及び全学のFD実践状況を理解し、教員の資質向上に資するための研究・学習・討議等を学部教授会終了後に適宜開催する。
- c 委員会の審議事項等
下記の事案について委員会に付議し、活動を開始する予定である。
・ 2015年度の活動に関すること
- ② 実施状況
- a 実施内容
以下の取組を実施する。
① オフィス・アワーを設ける。
② 授業評価アンケートを実施する。
③ 教員相互の授業参観を実施する。
④ 教職協働による学生フォロー体制を構築する。
- b 実施方法
以下の方法で実施をしていく。
① 全教員がオフィス・アワーを設け、学生の正課、課外活動の両面のサポートを行う。
② 授業評価アンケートを春学期、秋学期にそれぞれ実施し、教員、学生へフィードバックする体制を構築する。
③ 教員相互の授業参観では、学内イントラネットで教員に告知する。
参観した教員がアンケートに記入し、教育学習センターにて集計、それを教員間で共有をする。
④ クラスアドバイザー制度（学生一人ひとりに教員がつき、学業面や生活面に対して助言する）、学生相談室、学生支援センターを設け、学生の正課、課外活動を多角的な面からフォローする体制を確立する。
- c 開催状況（教員の参加状況含む）
上記①～④の取組みを速やかに実施する予定である。
①・・・教員に徹底したうえで、学生に周知済みである。
②・・・全学に合わせて実施予定。
③④・・・体制の構築中である。
- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
教員相互による授業参観や授業評価アンケートに関する情報を全教員で共有し、適宜授業改善に取り組む。
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
- a 実施の有無及び実施時期
2015年度は5月～6月、11月に実施予定。
- b 教員や学生への公開状況、方法等
教職員、学生とも、当該部署（教育学習センター・瀬戸キャンパス総合事務部）にて閲覧することが出来る。教員は自身の担当科目を、学内イントラネットでも閲覧出来る。

- (注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「② 実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

グローバル化が進む21世紀は、地域的利害や宗教意識がもたらす様々な地域紛争を引き起こし、地球全体を不安定な状態に置きつつある。また、20世紀に地球規模で顕在化した環境問題、世界を同時に巻き込むように進行する経済的混乱など、世界のあらゆる地域に暮らす人間が等しく地球人として協働し、持続可能な発展に対する妨げも山積している。それ故、様々な社会事情や国際関係、あるいは海外諸言語を個別に学ぶだけでは、真の国際性を有するグローバル人材となることは困難である。すなわち、国際社会の置かれた現状、それぞれの国・地域における文化のあり方や地域固有の生活、教育環境・歴史認識・文化遺産・宗教意識など多様な知識の集積が必要であり、かつ地域的課題やグローバルな諸問題を見出し、その実態を理解し、問題解決につなげる積極的な行動力も求められる。国際文化学部理念は、本学の社会的使命を継続的に果たすため、広く世界の多様な文化を学び、世界が直面している地球環境の改変や異文化・異民族問題、あるいは宗教対立や政治的紛争が絶え間なく生じている現状に対応できる実践的な能力を有する人材を養成することにある。国際文化学部は、その理念に基づいて以下の諸点を目的として設置された。

①グローバル社会に生起する様々な問題についての的確に対応できる多文化理解と持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付ける。②グローバルに展開する社会・経済・文化の持続的発展に貢献する豊かな教養と人間性を養う。③日本文化の基礎を確実に身に付け、多文化理解における比較文化の視点を明確に持たせる。④国際共通語である英語の運用能力を高め、海外での国際協力活動に活かすことができるレベルを目指す。並行して、中国語、ドイツ語、フランス語又はスペイン語のいずれかについて、基本的な会話の運用能力を身に付ける。このように、深い異文化理解に基づいて、海外滞在の適応力を養うとともに、日本国内で暮らす様々な外国籍者とのコミュニケーションや相互文化理解を図る。

このように、国際文化学部の扱う領域は、グローバル社会とは何かという大きな問題意識の下、国際社会の個別地域を対象とした歴史・文化を中心に、社会・政治・経済・宗教・環境など極めて多岐にわたる。そこで、国際文化学部は、力学「国際理解」及び「多文化交流」を中心に展開する国際文化学科と、「文化協力」及び「文化支援」を念頭に置いて国際文化理解教育を実践する国際協力学科の2学科体制とし、学修の方向性を明確に示すこととした。外国語学部国際文化協力学科のこれまでに実績に基づき、国際協力学科は、グローバルに展開する地域固有の文化・社会・経済・宗教などの現状を理解し、個別地域社会や多文化社会との積極的な交流を通して、地球レベルでの持続的文化発展に貢献する豊かな教養と人間性を養い、国際文化協力の担い手を育成することを目的としている。国際協力に関する教育の視点には多様な分野・方法が包含されるが、本学科では生活文化という側面を重視し、国際社会で共有可能な生活文化・生活環境・教育観などに基礎づけられた文化協力・文化交流を主軸にした国際協力実践を教育の中心に据えている。

平成27年度から学生の受け入れを始めたが、第1回入学生はカリキュラム及び授業計画・時間割に沿って本年度に開講されたすべての科目を受講する環境にあり、少人数学習を基本としつつ計画的に学習を進めている。そこでは全学的に配置されている教養系プログラム「NGU教養スタンダード」による科目を基礎・導入系教育として受講することと、国際協力学科の専門基礎教育を為す科目とを履修することで、国際協力学科の入門部分を学修し、大学生としての学びのスタートを切ったところである。その中で「キリスト教概説」「基礎セミナー」の学習を通して本学の建学の精神や歴史を学ぶとともに、地域で生きることの意味を学修し、社会人としてのあるべき姿を学びつつある。また、「NGU教養スタンダード科目」に配置されている多くの科目から自己の意志と希望によって選択された科目についても複数科目の履修がなされており、自由な選択と系統的な学習の両面が実感できるような履修がなされている。さらに専門科目としては学部必修の「国際文化論」を学部教育の入門として位置づけ、さらに「国際協力実践論1」の履修を通して「スタディツアー」などの実践的学習への連絡が系統的につけられるように学習課程を整備し、多くの学生が選択している。

基礎セミナーは大学生としてスタートを切る重要な第一歩となる科目であり、20名程度のクラスで、教員と学生が相互に顔が見え、かつ適切な学生間の交流・仲間づくりが出来るクラスサイズとして設定された。そこでは授業概要に沿った授業と並行して、クラス全体の自主的かつ創造的な活動が実施され、学生による地域と世界の繋がりを知る「小フィールドワーク」と発表会におけるプレゼンテーションなどをすでに実践的に学習している。国際協力学科の学生にとって必要な知識学習と行動力を醸成する実践的学習がすでにスタートしているのであり、これらをさらに有機的に繋げつつ、計画通り1年次の学習計画を進めているところである。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成27年10月 公表予定

b 公表方法

自己点検・評価報告書『名古屋学院大学の現状と課題』を刊行し、学内外に配布及びホームページで公表する。

③ 認証評価を受ける計画

財団法人大学基準協会の相互評価及び認証評価を受け、平成24年3月に、「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2019（平成31）年3月31日までとする。」との結果を受領している。

(注)・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (年 月 日)

資料目次

資料1 FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会規定